

第6次福島市総合計画
「将来構想」及び「基本方針」に関する意見書
(案)

令和2年1月24日

ふくしま新ステージ有識者懇談会

ふくしま新ステージ有識者懇談会は、福島市のまちづくりに関する最も重要な計画である第6次となる新たな福島市総合計画の策定に関して調査審議するため、令和元年5月7日に設置されました。

これまで5回にわたる会議を開催し、現在の総合計画の進捗状況や福島市の人口動態などの現状などを確認しながら、第6次福島市総合計画における10年先を見据えた福島市の目指すべき将来のまちの姿である「将来構想」及び将来構想を実現するための5年間の基本的な考え方である「基本方針」について慎重に議論を重ねてまいりました。

ついては、当懇談会における委員の意見の概要を次のとおり取りまとめましたので提出します。

これらが第6次福島市総合計画策定の一助になることを期待します。

【ふくしま新ステージ有識者懇談会の開催経過】

回	開催日	主な議事
第1回	令和元年 5月7日	<ul style="list-style-type: none"> ・有識者懇談会の役割及び議論のポイント ・新しい総合計画の構成と策定推進体制
第2回	令和元年 8月22日	<ul style="list-style-type: none"> ・福島市の現状 現行の総合計画の進捗状況、人口動態、 社会指標分析 ほか ・総合計画 Yu-Me（ゆめ）会議の活動状況① ・「将来構想」及び「基本方針」に関する 協議①
第3回	令和元年 11月14日	<ul style="list-style-type: none"> ・総合計画 Yu-Me（ゆめ）会議の活動状況② ・「将来構想」及び「基本方針」に関する 協議②
第4回	令和元年 12月25日	<ul style="list-style-type: none"> ・新しい総合計画の体系図 ・「将来構想」及び「基本方針」に関する 協議③
第5回	令和2年 1月15日	<ul style="list-style-type: none"> ・「将来構想」及び「基本方針」に関する 意見書の決定

【総合計画全般に関する事項】

総合計画は、福島市のまちづくりに関する最も重要な計画であり、福島市が目指すべき将来のまちの姿を実現するため、長期的な展望のもと、まちづくりの基本的な方向性などを示すものであることから、特に以下の3点を踏まえてご検討いただきたい。

- (1) 総合計画は市民と行政が共有するものであり、子どもからお年寄りまで幅広い世代に分かりやすく、親しみのある内容であるべきと考えます。
- (2) 福島市として「どのようなまちにしていくか」という意気込みやメッセージ、理念を打ち出し、まちづくりの指針として迷った時に立ち返れる内容であるべきと考えます。
- (3) 第1次から第5次までの総合計画の経過を踏まえつつも、前例に捉われず福島らしいオリジナリティや特色をもった総合計画にすることが必要であると考えます。

【将来構想に関する事項】

将来構想は、10年先を見据えた福島市が目指すべき将来のまちの姿を描くものであることから、特に以下の5点を踏まえてご検討いただきたい。

- (1) 福島市が大切にしなければならない視点は何かを考え、福島らしさを大切にする内容を盛り込むべきであると考えます。
- (2) 少子高齢化や人口減少の進展は、福島市のみならず日本全体に関わる最大の課題であると言えます。人口というベースがある程度維持されなければ、経済活動の停滞や税収の減少などの影響により、将来的に福島市の取り組みが実現できない環境になることが懸念されるため、未来への投資や未来に繋がる持続可能性については、最重点的に捉えるべきであると考えます。

- (3) 福島市は、福島県の県都であり、中核市であるため、県北、福島圏域、福島県全体の拠点としての役割を担う必要があると考えます。
- (4) 第6次福島市総合計画が始まる令和3年度は、東日本大震災から10年が経過し、国の復興・創生期間終了後の新たなスタートをきる年となります。
これまでの復興の軌跡と国内外から頂いた数々の支援を忘れず、力強い復興を成し遂げ、世界から目標にされるようなまちづくりに取り組む内容を盛り込むべきであると考えます。
- (5) 近年のグローバル化の進展や互いの価値観や個性を認め合う社会が求められているため、共生社会の理念を踏まえる必要があると考えます。

【基本方針に関する事項】

基本方針は、将来構想を実現していくためのまちづくりの方向性として、第6次福島市総合計画の計画期間である5年間の基本的な考え方となるものであることから、特に以下の5点を踏まえご検討いただきたい。

- (1) 市民が一人ひとりの幸せに挑戦できる環境であるということは、そこにある企業やまちも活性化することに繋がるため、特に子どもや若者、さらには子育て世代を引き付ける、楽しさや魅力、わくわく感などが生まれる視点が必要であると考えます。
- (2) 昨今の異常気象に鑑み、防災・減災など、自助・共助・公助のバランスがとれたまちづくりが必要であると考えます。
- (3) 福島市の特徴である花や音楽、歴史・文化、温泉やくだものなどの資源（強み）、山や川などの自然・景観など、伝統的な福島らしさを大事にするとともに、発展や挑戦といった新しいものを生み出す視点も必要であると考えます。

- (4) 市民が「住んでよかった」「住み続けたい」と実感できる、周りから「住んでみたい」「行ってみたい」と思われるまちづくりが必要であると考えます。
- (5) まちは市民と行政がともに創り上げていくという考えのもと、市民がまちづくりに主体性（当事者意識）を持って参加し、自分事として取り組む必要があると考えます。

【将来構想や基本方針の実現に向けて留意すべき事項】

将来構想や基本方針の実現にあたっては、効果的で実行性のある仕組みが必要であることから、特に以下の3点を踏まえご検討いただきたい。

- (1) 将来構想や基本方針の実現に向けた各施策の実施にあたっては、限りある財源やマンパワーなどを考慮し、プライオリティを念頭に置いた戦略的な取り組みを展開するべきであると考えます。
- (2) 「総合計画 Yu-Me（ゆめ）会議」は、市民が主体的にまちづくりに関わる良い機会であり、当事者意識を高める効果的な場であります。今後も行政、市民、大学、経済界などが一体となったまちづくりを進める仕組みを設けるべきであると考えます。
- (3) 現在の総合計画の進捗状況を把握し、起きていること（実績）の要因を分析したうえで、第6次福島市総合計画の施策展開に繋げ、併せて、これらの裏付けとなる将来の財政見通しを把握、分析するべきであると考えます。

ふくしま新ステージ有識者懇談会

会 長	伊 藤	宏
副会長	三 宅	祐 子
委 員	岡 野	誠
委 員	菅 野	孝 志
委 員	菅 野	廣 男
委 員	木 下	真理子
委 員	齋 藤	美 佐
委 員	高 橋	満 彦
委 員	高 橋	理里子
委 員	高 谷	理恵子
委 員	西 内	みなみ
委 員	安 田	信 二
委 員	渡 邊	博 美